

午後六時  
芝公園

# 2/7日韓外相会談秘録！緊急行動へ

## 日帝の朝鮮侵略反革命体制を全人民の総力を打ち砕け

全口の新竹者、友人諸君。

米日韓反革命階級体制、日帝の朝鮮侵略反革命体制は新たな段階に入っている。我々は朝鮮人民の民主回復、南北自主統一闘争に呼応し、連帯した日帝本国内での新竹者、農民、学生の大攻撃をつくりだしていかねばならぬ。

南朝鮮の先進的新竹者、知識人は昨年三月一日民主救国宣言を発し、朴憲章組執政権による一切の民主運動への弾圧と日帝、朴政権による南朝鮮の半植民地化、従属化に反対して立ち上がり、農民等大多数の人民の被弾を打破する公然たる闘いを開始し、そして民族自決と解放への力強い闘争をつくりださんとしていた。それは、朴によるアミョの弾圧体制下にもなわらず、獄中の金芝河氏等多くの政治犯達の不屈の決意、昨十日のソウル大學生三百余名の決起と日帝の支配地域である馬山における新竹者達の即ち等々と連帯的に拡大し深まってきた。

《日韓階級を米日韓反革命階級体制に新砕へ組織せよ》  
行動目的は、日帝支那階級との二つした、計画の打合せと、同時に米韓階級、日韓階級のみならずを意図したものとてある。

こうした南朝鮮人民の英雄的決起が、つづく中で、いままたロッキード系事件に引きつづき、米日韓反革命階級体制下での支那階級の腐敗と墮落、米韓、日韓階級が暴露された。それは、米日韓の反革命体制の再編強化へと、すなわち米帝と日帝の暗闘を深みつつも、アジアの民族解放、社会主義革命に対する反革命同盟の再編を、日帝を盟主とした侵略反革命へと突きすすんでいるのである。

昨年八月の日米防衛協力委員の設置、その直後の朝鮮半島の板门店での米帝、朴憲章組執政権の共口への戦争挑発行動、そして日韓両軍の参謀会談と相次ぎ、日帝による朝鮮半島への侵略の強化と朴と一体となった南朝鮮人民の決起、民族解放闘争に対する反革命階級を強めている。今日日帝と朴によるKIDC設立策動は、在韓米軍撤退後の朴憲章部隊と日帝の反革命体制強化のものとに計られ、更なる南朝鮮人民の収奪と抑圧の強化を目論んでいるのである。

こうしたことは、今回の二月十九日の山坂、朴外相会談それと先立って二十六日韓日委員会（これを朴憲章組執政権が実行する）の来日とその行動目的は、日帝支那階級との二つした、計画の打合せと、同時に米韓階級、日韓階級のみならずを意図したものとてある。

★反米反日反革命階級を打ち砕く

# 遊撃

を  
うも  
うも

このことは、今回の二月十九日の山坂、朴外相会談それと先立って二十六日韓日委員会（これを朴憲章組執政権が実行する）の来日とその行動

侵略反革命策動であることは明らかである。

だが、日帝支配階級をまた戦後民主主義を打ち進める相対化の中で、すなわち植民地階級を人民の解放斗争の攻勢と、日本帝制者人民の広汎な反帝斗争の激化の中でこの矛盾の解決は階級激化でしかないことを先行的に示してきている。この間のブルジョア階級力の強権化を軸とした、天皇制、天皇制イデオロギー攻勢は、空相化した戦後支配階級の転換を、被抑法社会化攻勢を要体化しつつ民族排外主義動員への反革命階級形成としてあること、それは在日朝鮮人、韓国入への差別、分断抑圧攻勢——入管体制の強化とその改悪攻勢、そして口内の被差別大衆への差別、抑圧攻勢と二重、三重の差別相対化とそのイデオロギー的高揚化——激化攻勢こそそのことを表わしている。

この依然として日本帝国主义の侵略反革命体制の再編——反革命階級形成に對する日本プロレタリア、人民の反動と攻勢は竹竹者階級本部の不遜として養成され、革命派を筆頭として全戦線での攻勢への態勢が急に要求されている。

二の日韓外相会談——日韓親善懇談会が日帝の朝鮮侵略反革命への大きな布石であるにもみまわらず、公明、民社は勿論のことながら社会党、日共はこのことへの反対一片すら明らかにすることが出来ず、戦後民主主義——平和憲法擁護——日本国保体制の維持のもと積極的にこの侵略反革命への加担を始めている。そこで、米帝カーターの「人権擁護なる主張に幻想を膨らませ、在韓米軍撤退の真の本質が日帝の替なり——米日親反革命階級体制の帝口主義者にしての再編激化にもみまわらず、これらの帝口主義の行動を賞賛している。今日の保身者仲なる国会内士族での帝口主義者と社会党口主義者達の幻想劇は、日本帝口主義の腐朽化とその危機を、自ラプロレタリア階級——社会主義革命へと導くものでなく、資本主義の救済、民族解放——社会主義革命戦争に對する、一層の侵略反革命への道であり、口内帝制者人民への収奪と抑圧の強化でしかない。日帝支配階級の頭目——水野は今回の選は、結局戦後民主主義体制の擁護派を滅ぼした

のことはないから安心だ」という発言は、まばや今日の口内政府の政敵相対化の排外主義の本質を相対化していることを示している。現在の全戦線への一非削減要求と赤字口債発行に戦争公債の取り引きこそ、その体制である。

朝鮮人民の決起に志え日帝心臓部をプロレタリアートの全戦線での攻勢を開始せよ

竹竹者、友人諸君

日韓外相会談——日韓親善懇談会が日帝への決起せよ。戦々はこの事実をあることなく暴露し、朝鮮人民の決起を断固支持し、帝口主義階級での帝口主義打倒へ決起せよ。この時期、何によりも要求されていることは日帝内での社会党の協会の、日共——社会党口主義者、四口、プロレタリアと和見主義階級との徹底した分岐を全戦線で行使し、強固な革命派の地位を形成し、日帝の朝鮮侵略反革命との真正面からの対決をおこすのである。

三里塚農民——反対同盟の十余年にわたる空前の闘争は、その中で福田政権——日帝の警察、官僚階級との全面的対決として発展し、社会の此上を明らかにし、長期の暴力闘争を堅持し、日本革命闘争の一大高地としての拠点になってきた。戦々、この闘いの発展を、日帝反革命攻勢に對する革命派——侵略反革命阻止全口政治共闘の強固な隊列で、反対同盟と連携してつくりだしていくこと、それは朝鮮人民決起に對し、革命派の呼応であり、被抑圧階級の民族解放闘争に對する日本プロレタリアートの口内主義的立場行動である。植民地階級の革命闘争に、そして民族解放——社会主義革命闘争の継続的発展を押しすすめている竹竹者、農民等被抑圧階級の社会主義への発展に對し、戦々は暴力闘争を堅持し、発展させ、社会主義革命派の強固な隊伍を創出していかねばならぬ。社会党、日和見主義を徹底粉砕し、日帝の朝鮮侵略反革命と対決せよ。朝鮮人民の階級と決起を戦々ものとし、日韓外相会談を粉砕せよ。三里塚四月決起への総力戦を開始せよ。